

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国本土からの団体観光客が引き続き好調に推移している。国内からの一般団体客も滞在型の客が多く、宴会などの付帯収入も見込める。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・7月の乗降利用客数は、7月27日現在で前年比125.1%と大きく伸びている。今年度に入ってから、毎月、前年実績を上回り続けている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・外国人観光客の伸びが前年よりも緩やかではあるものの、中旬以降、地元客の来街が回復してきたことで、日用品などの売上が伸びてきている。また、道外からの観光客も増加している。サッカーの全道大会などの効果もあり、交通、宿泊、土産などの売上がアップしている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・最低賃金の引上げ方針が示されたことが影響しているのか、政権に対する愚痴があまり聞かれなくなった。また、普段は売れない3000～4000円の割と高額な商材が売れるようになってきている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・セールがスタートしてから、ファッションフロアを中心に堅調に推移している。特に気温が上昇した月後半は、夏アイテムの動きが活発になっている。また、外国人観光客の増加は7月に入っても続いている。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・人口減少が顕著な郡部の売上が好調である。プレミアム付商品券が発売されたことで、景気が活性化している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・7月はうな重の予約件数が前年比で120%アップしたことが、全体売上を押し上げる要因の一つとなった。全体売上は前年比104%となった。
		コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・中国からの観光客が増えているため、やや良くなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコンが前年並みに売れるようになってきた。冷蔵庫や洗濯機の販売量も上向きになってきている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・来客数が増えている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・夏休みに入り、観光客の入込状況が良く、特にランチタイムの客は家族連れ、外国人が大半である。また、当地では7月下旬に大きなイベントがあり、全国から集まったファンの来店がみられたほか、寄港した外国船クルーズの客も目立った。売上は前年を10%上回った。
		観光型ホテル（役員）	単価の動き	・今夏は個人客が増加しており、宿泊単価も上昇傾向にある。宿泊客数の伸びはそれほど大きくないが、単価アップの効果で売上は増加している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・羽田便の供給座席数が6月から増加していることに加えて、関西国際空港や大阪国際空港などの関西方面からの季節運航便が継続していることから、航空便の利用客数が増加傾向で推移している。また、観光やビジネスのほか、ラグビー、陸上、その他の競技などの夏場のスポーツ合宿や大会の受入も活発になっている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・旅行申込のために来店する客が増加していることから、やや良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が極端に増えたという感覚はないが、販売実績をみると、着実に上向きになってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・7月は気温が高く、暑い日が多かったせいもあり、タクシーの売上は前年よりも伸びている。夜の繁華街の人出も前年より増えている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・7月は競馬開催やイベントがあったこともあり、観光客の入込も多かった。3か月前と比較すると、売上は約7%増えており、前年実績と比べても約4%増えたことから、やや良くなっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・観光バス部門が好調に推移している。また、市内の宿泊施設の稼働率も高い水準で推移している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・札幌圏の量販店や大規模店などで機器やサービスを購入した客に追加サービスの紹介を行った際に、家族や通信機器に詳しい男性を中心に追加購入する客が増えている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・プレミアム付商品券の効果もあり、やや良くなっている。

変わらない

商店街（代表者）	お客様の様子	・当地では公務員のほか、小企業、零細企業で働いている現役世代が多いことに加えて、高齢者も多い。こうしたなか、消費者の所得が上がってこない状態にある。ただ、消費マインド自体は堅調に推移している。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみても、景気が良いのか悪いのか、どちらとも言えない。消費税の増税分を負担しきれていない状況にある。
商店街（代表者）	販売量の動き	・6月からの低温の影響で衣料品などのファッション系の販売が奮わなかった。また、天候が悪かったことも響き、前年実績を少し下回っている店舗が多く、良くて前年並みという状況である。観光面では、修学旅行の北海道離れが進んでおり、年々減少し続けているほか、日本人観光客も奮わず、苦戦が続いている。
一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客が多い国際線の店舗についてはかなり良い数字が出ている。客の動きをみても、中国方面を始めとして旅客数が減るような動向はみられない。最近では個人旅行がまた多くなってきているが、個人旅行者の客単価がかなり高いことが7月の目立った動きであった。
一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月、好調な売上が続いていたが、7月はちょっと一服感があり、3か月前と似たような動きとなっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今年は改装に伴う床面積の減少がマイナス要因となり、来客数が前年比98%と苦戦している。外国人観光客による売上は前年の3倍を超える伸びがみられるが、セールや中元商戦では日本人地元客による売上の減少が続いている。ただ、秋物先行の定価品の売上は前年比101%となっており、購買意欲が潜在していることはうかがえる。
百貨店（担当者）	それ以外	・来客数が減少しているまま、回復してこない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数、客単価共に大きな変化がみられない。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は前年を下回っている。株高であたかも景気が上向いているような報道もみられるが、客の消費動向は相変わらず慎重なままである。
スーパー（役員）	販売量の動き	・商品単価が上昇していることを要因として、客単価が前年比で1.5～2.0%上昇しているものの、客1人当たりの平均買上点数が前年比で低下している。ただ、周辺の自治体でプレミアム付商品券の販売が行われてからは、来客数、平均買上点数がやや増加してきている。来客数も現状では前年並みまで回復しつつある。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ここ3か月、売上の減少が継続しており、前年比は横ばいで推移している。メロンやすいかなど、季節商材の果物の動きが良く、生鮮品の売上は前年をクリアしているが、菓子や飲料水など、保存型商材で売上が大きく減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・季節的に天候要因の影響が大きいですが、前年並みの条件さえそろえば、前年実績以上の売上を確保できそうな雰囲気がある。しかし、公共工事減少の影響が大きく、流動客の減少が続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月は道東の沿岸部でのこんぶ漁が良かったことが、売上や来客数の増加につながっている。また、気温が前年よりも高いことで、飲料水、アイスなどの夏物商材の売上が良く、夜間の来客数増加にもつながっている。ただ、全般的な回復傾向にあるとまではいえない。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・貸切バスの運賃値上がりの影響で、団体観光客が減っている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・セール品であっても、単価の高い商材が売れない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出たことで若干のにぎわいはあるものの、先行きが不透明である。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車が発売されて、客の動きが多少良くなってきたようにみえるが、受注まで時間がかかることが多く、客の消費意欲の弱さがうかがえる。
自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・車検は前年を上回ったものの、オイル交換件数が前年比85%、タイヤ購入件数が前年比90%となっており、車にかかる費用が最小限に抑えられている雰囲気がある。

	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が低下傾向にあるなど、需要回復の兆しがある。
	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・景気が上向きになるような材料が見付からない。円安が進み、物価の値上がりも収まらず、一般市民の感覚としては不景気と感じてしまう。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・このところ客層が変わってきており、いつも来店してくれる客が減ってきている。また、メニューの価格を下げると、そのメニューは売れるが、来客数アップにはつながってこない。近年は、熱中症などの報道が多いが、高温高湿度の日は外出する人が少なく、それに伴って売上も減っているような錯覚に陥っている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年と比べて、売上動向に大きな変動がみられないため、全体としては変わらない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・観光客がたくさん訪れているが、その割に客がそれほど増えなかった。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・前年と比較しても、申込件数などが特段増えていないため、全体としては変わらない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・プレミアム付商品券などの効果で、一時的な上向き効果が見込まれるが、現状としては変わらないままである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光関係、イベント関係共に、前年と比べて需要が少しずつ増加してきている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・社員の高齢化に伴う社員数の減少により、売上が減っている。他産業での雇用が好調のため、新入社員を確保できず、1人当たりの売上を伸ばす工夫を模索している段階にある。
	美容室（経営者）	単価の動き	・来客数が前年比で3%ほど増加しているが、売上は前年とほぼ同じであり、客単価が低下していることがうかがえる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・これから夏に向かうため、例年と同様に観光最盛期に突入している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅や高額商材については前々年並みの水準に戻ってきている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・60歳以上の高齢者の購買量や客単価が落ちている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・現時点において、7月の売上は例年の3割減となっている。今後の来客数の動きに期待している。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・7月に入り、セールの上は前年比95%の状況である。一方、中元商戦の売上は前年比101%となっていることから、顧客に動きが出ていることがうかがえる。夏休みとあわせて、7月下旬から催事を行っているが、催事への来客が全体の売上を押し上げている。
	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・夏のセールが盛り上がり、前年増を見込んでいたものの、苦戦している。外国人観光客による需要は好調に推移しているが、中旬までの不安定な天候が影響し、衣料品が苦戦している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・競合店のリニューアルや売出しなどによる攻勢の影響もあるが、3か月前と比較すると、前月に引き続き明らかに悪くなってきている。販売量は3か月前との比較でも、前年との比較でも86%という状態である。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・プレミアム付商品券の発売に伴い、消費が拡大傾向にあるが、食品関連が中心である。毎週のように行われている夏のイベントに向けて、各団体、企業からは例年並みの浴衣の注文が入ってきているが、若い客向けの浴衣セットは、量販店に客を取られたのか、販売量が前年を下回っている。一方、帰省中の客を対象とした振袖セットは、特価価格の安い商材が動かず、特別価格の高級品が動いている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ここ3か月の動きをみると、月ごとに販売量が減ってきている。夏枯れという時期的な影響がみられている。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・連日、北海道とは思えない暑さが続いている。高齢化している顧客には暑さがこたえるのか、7月は年金の支払月ではないこともあり、客が来店しておらず、厳しさが増している。

		通信会社（社員）	お客様の様子	・松竹梅の価格帯の商材が並んでいたとして、前年までであれば竹を買うつもりのお客様であっても、頑張って松を買うことが多くみられたが、今年は梅にグレードダウンしてでも安い商材を買うことが増えている。こうした流れがなかなか改善されてこない。
		住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来客数に変化はみられないが、具体的なマンション購入を検討する客の割合が減ってきている。
	悪くなっている	-	-	-
企業 動向 関連  (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2020年の東京オリンピック開催に加えて、株価上昇や外国人観光者の増加に伴う好景気を受けて、首都圏を中心に受注成約が増している。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上に特別変化はみられない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・引き続き段ボール原紙の売行き不振のため、工場では減産を行っている。ただし、落ち込み分をカバーすべく、輸出製品を一部生産している。
		輸送業（支店長）	競争相手の様子	・物流量が増えてこない。同業者も同様の状況のようであり、暇だとの声をよく聞く。
		金融業（企画担当）	それ以外	・外国人観光客が大幅に増加していることで、ホテル、旅館、土産菓子メーカーなどは好調である。しかし、建設関連は公共工事の一巡で伸び悩んでいる。電気料金の値上がりも企業収益を圧迫している。個人所得はわずかに改善しているが、諸物価の値上がりもあり、個人消費は節約志向が強い。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引に大きな変化はみられない。様々な社会的要因が内在しているためか、市場経済と一致しない点がみられる。
		司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の建築の動きをみると、例年と同様の状況か、多少落ち目で推移している。
		司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆しがみえない。外国人旅行者の数が増えても、潤うのは一部の業種であり、一般の消費者にはあまり影響がない。給与が増えるような確かな要因もないため、大型消費に投資しにくい環境に変わりはない。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・過去の経験を踏まえてなのか、客の慎重な様子がかえらる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年が良かったため、悪くなった印象があるが、前々年と比較すれば、同様の水準であり、変化はみられない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・公共事業の予算が大幅に減額された影響で、地区の基幹産業である建設業からの引き合いや受注が減少している。	
	やや悪くなっている	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・着工のめどがついた大型医療施設や新築マンションの動向をみると、建築工事費の高騰が止まった様子がかえらる。ただ、建築工事の仕事量は減少している。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事が発注ベースで前年割れとなっているため、やや悪くなっている。
その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）		受注量や販売量の動き	・客先である鉄骨加工業の仕事量は、毎月のばらつきが多く、安定していない。一方、安定的に仕事量を確保している機械加工業は消耗資材の購入が少ないため、販売量が少ない。結果的に売上が減少している状況にある。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連  (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・当社の人材紹介事業において、採用数が増えている。また、行政官庁から受託している、若年未就職者への就職支援事業においても、以前と比べて採用までの期間が短くなっており、採用数も増えている。これらのことから、企業の採用意欲が高まっていることがうかがえる。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・すすきのの活況だけをみると、景気回復を感じられるが、企業としては実感が薄い。また、飲食店や生活関連サービス、医療介護などの求人は多いが、人材の確保が難しくなっている。紹介や派遣の登録スタッフの集まりが悪い状況も続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が65か月連続で前年を上回った。このうち、新規求人数は前年から9.8%の増加となった。一方、月間有効求職者数は44か月連続で前年を下回った。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・6月の有効求職者数が45か月連続で前年を下回っている。また、有効求人倍率も前年を上回っており、高い水準が続いている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・人気のある職種に偏りがみられる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・あらゆる手段で求人しても、人材の集まりにくい状況が続いている。特に建設や介護関係で厳しさを増している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・農林水産業、建設業などの求人数が減少しているが、食品専門店、スーパーなどの求人数が増加している。その他の業種については大きな変化がみられない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員求人は、看護師など、応募できる人が限られる職種が多く、非正規社員の正社員化は簡単な話ではない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は前年を6.1%上回り、19か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は前年を7.2%上回り、28か月連続で前年を上回った。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上が前年比マイナス14%と大きくダウンした。今年に入ってから、毎月、売上が前年から1割程度減少している。売上上位15業種のうち、10業種が売上減、そのうち4業種が5割減であった。
悪くなっている	-	-	-